

YAMAGATA International Documentary Film Festival 2017 Call For Entries

平成28年度 事業報告

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭2017

2017年10月5日[木] - 12日[木]

October 5 - 12, 2017

[作品募集]

インターナショナル・コンペティション

第1次応募締切 2016年12月15日

第2次応募締切 2017年4月15日

アジア千波万波

応募締切 2017年5月15日

応募先: 認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

#201, 9-52 Kinomi-cho, Yamagata City 990-0044 JAPAN

phone: 023-666-4480 fax: 023-625-4550

e-mail: entry2017@yidff.jp

主催: 認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

International Competition

The first deadline: December 15, 2016

The second deadline: April 15, 2017

New Asian Currents

Deadline: May 15, 2017

Contact: Yamagata International Documentary Film Festival (NPO)

#201, 9-52 Kinomi-cho, Yamagata City 990-0044 JAPAN

phone: 81-23-666-4480 fax: 81-23-625-4550

e-mail: entry2017@yidff.jp

Presented by Yamagata International Documentary Film Festival (NPO)



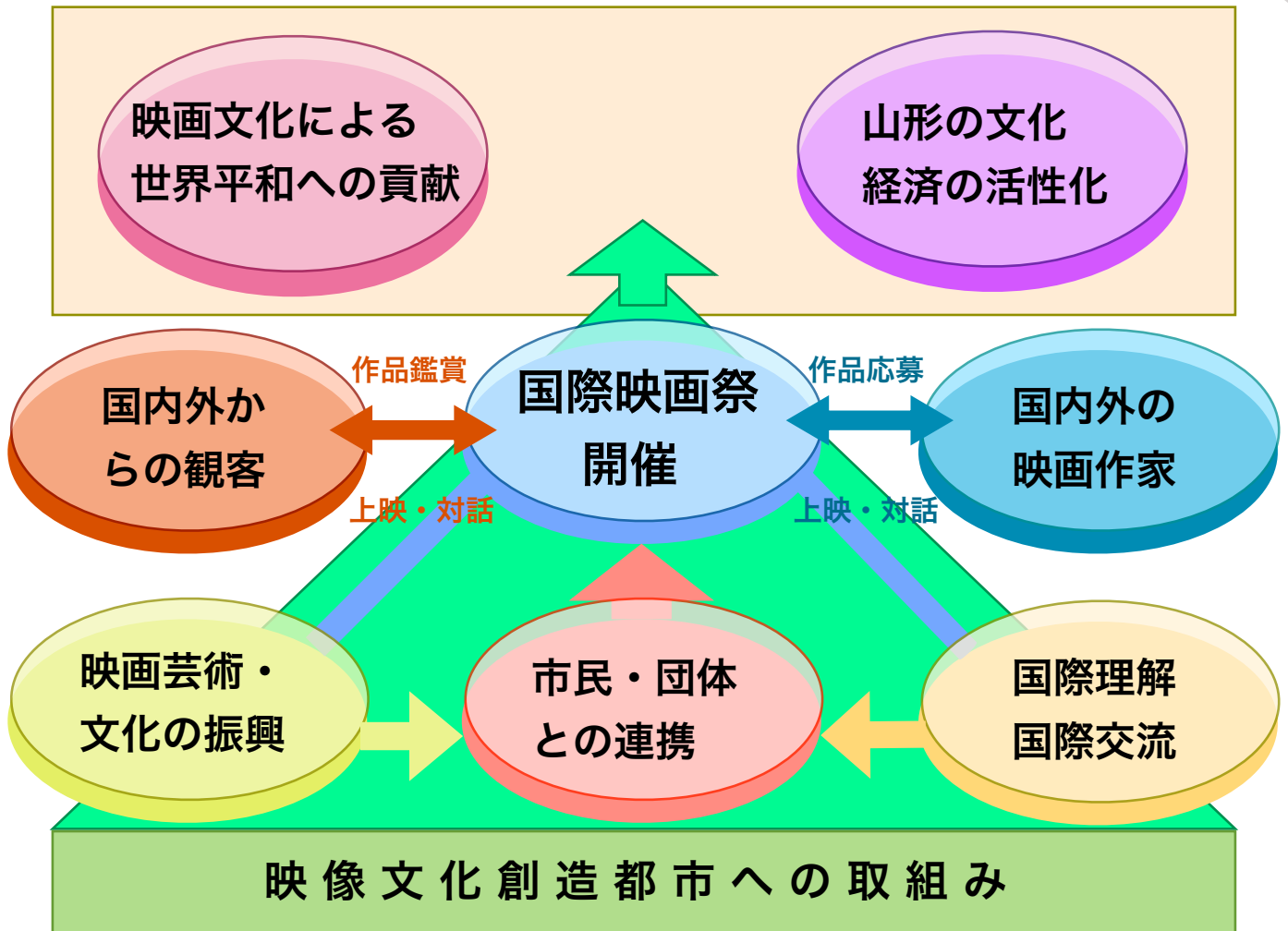
www.yidff.jp

目次

[1] YIDFF が掲げるミッション	3
[2] 平成28年度の総括	4
[3] 会議開催状況	4
[4] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017開催準備	5
[5] 上映会・鑑賞会推進	17
[6] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業	22
[7] 映像文化推進事業	23
[8] ネットワーク構築事業	24
[9] 出版事業	28
[10] 「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業	29
「11」映像文化創造都市推進活動	30
「12」映像素材デジタル化に伴う研究活動への協力	31
[13] 正会員・賛助会員の拡大および寄付募集活動	31
[14] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務	33
付録	34

[1] 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭が掲げるミッション

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、ドキュメンタリー映画に焦点をあてた国際映画祭の開催を主体として、映画芸術・文化、国際理解・国際交流に関する、市民と協働した様々な文化活動に取り組んでいます。



山形国際ドキュメンタリー映画祭のミッションは——

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催を通じて、国際理解や交流を深め、世界の平和に貢献する。また、山形においては映画祭を開かれた窓として、世界の今を知り、自己や都市（地域）のあり方を研いでゆくと共に、山形の文化・経済の活性化に寄与する。

事業方針

- (1) 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、時代を映す鏡であるドキュメンタリー映画を世界中から集め、山形市民、県民をはじめ日本全国や世界各国から参加される方々と優れた映像文化を共有し、ディスカッションやシンポジウム等を通じたより深い国際理解と国際交流を促進します。
- (2) 映画祭の開催を通して、山形の物産や風土を国内外に紹介するなど、様々な情報を発信します。
- (3) 東日本大震災関連作品を含め、世界中から集められた映像をライブラリーに保存し、鑑賞の機会を設け、継続的な共有を行います。
- (4) 映画・映像による生涯教育活動を推進します。特に若年層に対しては、ワークショップなどの開催を通して、豊かな情操教育活動に寄与します。

[2] 総括：映像文化に関する多様な成果を地域社会と共有

平成28年度は、作品募集・受付、作品選考、特集プログラムのリサーチ等、YIDFF 2017 開催に向けた準備業務を進めてきた。またイベントや多彩な上映会、山形ビエンナーレとのコラボ企画、ボランティアの方々と映画祭を考える公開イベントなどのほか、「ピアノ de シネマ」など幅広い年代に新鮮な映画体験を提供する活動、被災地の子どもたちとのワークショップ、創造都市事業とリンクする活動など、これまでに例をみないほど、映像文化に係わる活動に積極的に取り組んできた。特にこの年度は、様々な団体や市民との連携を意識的に図り、新たな広がりを作ることができたと強く実感している。社会包摂的な事業である「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」もまた、東日本大震災の記録と記憶を後世に伝えるための取り組みとして、助成金を獲得しつつ継続中である。このように当法人は映像文化に関する専門性と創造性を高めながら、その成果を地域社会と共有し、かつ協同性を育むことによって、更なる創造的な都市づくりに貢献してゆく所存である。



芸工大生制作の震災記録映画を上映した



ピアノ生演奏をバックに名作を鑑賞

[3] 会議開催状況

総会

□平成28年5月21日 平成28年度総会 (山形市霞城公民館2階 研修室1A、1B)

主要議題：平成27年度事業報告・収支決算・財産目録、監査報告、平成28年度事業計画(案)・予算(案)、役員改選、他

理事会

□平成28年4月20日 第106回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成27年度収支決算(見込)・映像文化推進事業決算、平成27年度事業報告、平成27年度監査依頼及び監査資料、規定の変更・追加(育児・介護休業)、事務局・理事体制、他

□平成28年5月11日 第107回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度総会議案書、映画祭2017開催日程(2017年10月5日[木]～10月12日[木])、平成28年度総会スケジュールと役割、映画祭2017作品募集ポスター選考と理事会日程、他

□平成28年6月28日 第108回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度4月・5月決算、作品募集ポスター、上映企画「山の恵みの映画たち」、YIDFF2015報告イベント、山形ビエンナーレ関連上映、上映企画「ピアノ de シネマ」、他

□平成28年7月26日 第109回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度6月決算、作品募集、締切日等、他

□平成28年8月24日 第110回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度7月決算、病気休暇、他

□平成28年9月15日 第111回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：就業規則の変更、他

□平成28年10月20日 第112回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度8月・9月決算、平成28年度第1次補正予算(案)、臨時職員新規採用に向けて、他

□平成28年11月24日 第113回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度10月決算、会計処理規程の変更、他

□平成28年12月24日 第114回理事会 (金魚)

主要議題：平成28年度11月決算、法人クレジットカード、他

□平成29年1月24日 第115回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度12月決算、平成28年度第2次補正予算(案)、「SHARING」上映、国際・コンペティション予備選考委員謝礼変更、他

□平成29年2月14日 第116回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度1月決算、監査日程および総会日程、「Beyond2020」ロゴ、他

□平成29年3月22日 第117回理事会 (山形まなび館 交流ルーム)

主要議題：平成28年度2月決算、第3次補正予算(案)、理事日当、平成29年度暫定予算執行、所蔵書籍等の在庫の取扱、寄付者状況と次年度の目標、映画祭2017期間中パーティーへの会員参加、他

[4] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 開催準備

(1) 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 の日程の検討と決定

■2015年映画祭の開催結果を踏まえ、「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017」開催日程についての検討を行った。その結果、10月の三連休を据えた10月5日〔木〕から10月12日〔木〕というスケジュールによって行うことが決定された。

開催日程	開催内容
10月5日〔木〕	開会式（オープニング上映）
10月6日〔金〕	作品上映スタート
10月7日〔土〕	本上映 3連休1日目
10月8日〔日〕	本上映 3連休2日目
10月9日〔月・祝〕	本上映 3連休3日目
10月10日〔火〕	本上映
10月11日〔水〕	本上映 + 授賞式（クロージング上映）
10月12日〔木〕	受賞作一挙上映（アンコール上映）

(2) 開催会場の検討

■スクリーン設置数とこれまでの集客人数、運営効率および2015年開催時に集計したアンケートによる観客の声を考慮し、上映会場の検討を行った。その結果、プログラム分量、徒歩による移動が容易であること、山形市街地の周遊を喚起することなどから、前回の2015年開催時と同様、山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館をメイン会場とすることが最適と判断した。この他、シンポジウム等の関連企画の会場として、山形まなび館、とんがりビル kuguru、東北芸術工科大学、山形大学などを視野に入れ、引き続き検討を行っていく予定である。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 上映会場

山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館、他

(3) 企画検討と調査研究

■下記の企画について検討および調査研究、準備を行った。現在も引き続き行っている。

① インターナショナル・コンペティション

公募により作品を集め、有識者および市民で構成される選考委員会による選考を経て、上映作品15本を選出。コンペティション形式で上映する。開催時は国際審査員により大賞（ロバート&フランシス・フラハティ賞）をはじめ、4つの賞が授与される。

② アジア千波万波

アジアの新進ドキュメンタリー作家の作品を紹介し、応援するプログラム。最も今後が期待される作品には、小川紳介監督の精神を受け継いで設置された小川紳介賞が授与される。

③特別招待作品

ドキュメンタリー映画の巨匠監督の最新作や審査員の作品等、話題作を紹介するプログラム。

④スペシャル・プログラム

◇アフリカ特集（仮称）

特定の地域に焦点を当て、いま直面している様々な問題と向き合った優れた作品群をまとめて上映するプログラム。これまでほとんど日本で取り上げられなかったことがないアフリカ地域を起点として、その周縁を含む地域を広い視野で複合的に取り上げる。

◇フレディ・ムーラー特集（仮称）

映画史を語る上で重要でありながら、これまで山形で紹介されることがない作家に焦点を当て、その作品群を回顧的に上映するプログラム。今回はスイスの監督フレディ・ムーラーを取り上げる。ロカルノ国際映画祭でグランプリに輝いた『山の焚火』や、多くの国際的な賞を受賞した『僕のピアノコンチェルト』など劇映画の監督で知られるが、今回の特集では主に初期作品に焦点を当て、実験映画、ドキュメンタリー作品を上映する。

◇アラブ特集（仮称）

国境を越えて広がるアラビア語圏。変わりゆく世界と真摯に向き合った作品群を取り上げ、国家や共同体を越えた人々の繋がりの可能性を模索する。2013年からの取組みを継続。

◇ヤマガタ・ラフカット！

2011年から継続的に開催しているプログラム。撮影、編集途中にあるプロジェクトを公募し、ラフカット（粗編集版）の上映と公開対話を行い、より豊かな映画の誕生を模索する。

◇アジア・フィルム・コミュニティ（仮称）

東南アジアの映画史に光を当てるプログラム。シンポジウムや展示企画、作品上映を通して、東南アジア映画に迫る。

◇日本プログラム

最新の日本ドキュメンタリーの様々な様相を提示し、作家同士、そして観客との交流の場を創出する。

◇ともにある Cinema with Us

2011年3月11日の東日本大震災による津波や原発事故という未曾有の経験と課題を見つめ伝えていくプログラム。YIDFF 2011 から4回目を迎え、ドキュメンタリーになにができるのか、また、この出来事がドキュメンタリーになにをもたらすのかを問う。

◇やまがたと映画

現代史を映し続けたヤマガタを映画・映像作品によって再発見する。様々な視点と試みで山形と映画の関わりを映し出す。

◇その他

その他、ワークショップ、各種シンポジウム、トークセッションを予定。

⑤関連企画

- ◇映画祭開会式、歓迎レセプション、授賞式、さよならパーティー
- ◇香味庵クラブ（市民と映画関係者の交流の場）
- ◇映画祭デイリーニュースの発行
- ◇ゲスト観光ツアー（山寺）
- ◇他団体との協力・共催企画

(4) 作品募集・受付業務

◇作品募集のための規約、募集用紙の作成、配布（国内外）

■作品募集呼びかけのため、ポスター、ポストカードの作成、配布（国内外）を行った。応募形態がオンラインエントリーに完全に移行していることを受け、規約用紙を作成せず、インターネット上での規約参照、応募登録を促した。

●制作部数

ポスター 1,000枚（前準備年同数）

ポストカード 10,000枚（前準備年同数）

●送付先

海外 1,157件（前準備年比102.2%）

国内 2,201件（前準備年比101%）

国内送付先：映画制作者、配給会社、製作会社、テレビ局、新聞社、映画祭、駐日大使館、映像関係機関・施設、映像関係教育機関（大学、専門学校）など。

●インターネット版

YIDFF公式サイト>YIDFF 2017 情報>作品募集>規約>オンライン応募用紙>応募Q&A

サイトURL：<http://www.yidff.jp/2017/entry/17entry.html>



YIDFF 2017 作品募集ポスター

作品募集ポスターデザイン

■YIDFF 2017 作品募集ポスターのデザインは東北芸術工科大学と連携し、グラフィックデザイン学科の3年生63名に取り組んでもらった。審査の結果、村上由夏さんのデザインに決定し、ポスター1,000枚を印刷。同デザインをポストカードにも展開し、10,000枚を製作。国内外に発送し、作品募集について周知した。



作品募集ポスター発表記者会見の様子



コンセプト説明の様子

◇問合せへの対応（電話、FAX、email）

◇応募作品の受付、分類作業

◇応募作品のシノプシス翻訳、データベース入力作業

■世界中からドキュメンタリー映画の秀作を集めて上映するため、応募規約に基づき、平成28年9月1日から募集・受付業務を行った。現在も継続して行っている。

	応募件数 (平成29年3月末時点)	前回比 (平成29年3月末時点)	前回最終応募件数
インターナショナル・コンペティション (締切：平成29年4月15日当日消印有効)	885	100%	1,196件
アジア千波万波 (締切：平成29年5月15日当日消印有効)	248	88%	678件
2部門合計	1133	97%	1,874件

■応募に関して、電話、emailにて問合せ対応を行った。送られてきた作品については、分類、ナンバリングを行い、シノプシスの翻訳、データベース入力作業を行った。現在も継続して行っている。

(5) 作品選考業務

◇コンペティション選考委員会の設置と選考

□インターナショナル・コンペティション部門

●選考委員

山形側選考委員5名（山形市民、正会員、山形事務局）

東京側選考委員5名（映画評論家、映画研究者、東京事務局）

■上記、計10名の選考委員会を組織し、インターナショナル・コンペティション部門上映15作品を決定する作品選考を行っている。応募された全ての作品について、1作品につき最低2名が試写を行い、選考の俎上に上げられた作品については、選考委員全員が試写を行う。選考においては必ず最後まで作品を視聴し、早送り等は一切行わないことが原則。選考委員1名につき、およそ200～300作品の視聴を行う。選考委員の他、山形及び東京のアドバイザーがそれぞれの応募作品を視聴し、評価コメントを提出する作品予備選考を行っている。選考は現在も継続中である。

●選考会議開催状況

3月12日〔日〕東京事務局（東京都新宿区愛住町）にて第1回選考会議を開催。

第2回は5月7日〔日〕東京事務局にて、最終選考会議は6月10日〔土〕に山形事務局にて開催予定。

最終選考会議においてインターナショナル・コンペティション上映15作品が決定する。

□アジア千波万波部門

●選考委員

■山形事務局1名、東京事務局2名によってアジア千波万波部門上映作品を決定する選考を行っている。選考方法はインターナショナル・コンペティション部門と同様。選考は現在も継続中である。

●選考会議開催状況

数回の選考会議を経て、6月末に上映作品を決定する予定である。

(6) 広報宣伝活動

■映画祭に対する関心や期待、参加意識を高めるために、広報宣伝活動を展開した。

プレイベントの開催

■映画祭 2017 の開催を広く知らしめることを目的としてプレイベントを開催した。



山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 プレイベント やまがたの山語り 山の恵みの映画たち 2016

開催日：2016年9月9日 [金] 10日 [土] 11日 [日]

会場：フォーラム山形

上映作品数：16作品 入場者数：1,165人



満員御礼！



ボランティアの皆さんが迎えます



縄文犬もトークに出演！

■「山の恵みの映画たち 2016」は市民による実行委員会の方々の絶大なるご協力や県内各地の広報協力者、チケット販売協力者からの応援をいただき、県内外からの多くの参加者を得て、盛会の内に開催することができた。山岳映画の枠を超え、山と人と動物との関わりや独特の文化を映画とトークを通して味わうプログラム。2014年の前回同様、普段はドキュメンタリー映画を積極的には見ない方々の参加も多く見受けられ、再映を望む声が寄せられた。また企画を契機に、このプログラムの中の一部の作品は県内での地域上映が続いている。

上映作品

■9月9日 [金]

『黒部の太陽』(73人) 『精霊の山ハヤマ』(96人) 『北壁に舞う』(135人) 『クライマー パタゴニアの彼方へ』(75人)

■9月10日 [土]

『里馬の森から馬搬 他4作品』(102人) 『シバ 縄文犬のゆめ』(88人) 『雪後に熊を狩る／春よこい』(141人)

■9月11日 [日]

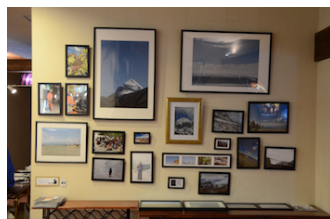
『越後奥三面』(183人) 『越後奥三面 第二部』(125人) 『ふたりの桃源郷』(111人) 『風の波紋』(36人)



自然の恵みについて話は尽きない



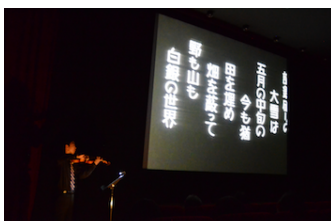
客席から飛び出す鋭い質問



展示物も充実してます



受付に長蛇の列が！



無声映画にバイオリンの生演奏が付く



マタギについての貴重な話が飛び出す



ボラさん、ゲストと一緒にニコリ



なんと山でもチラシ配りをしたのです



山形国際ドキュメンタリー映画祭 交流イベント
私のドキュやま 大芋煮会 —映画祭を語る—

開催日：2016年11月5日 [土]

会場：とんがりビル kuguru

上映作品：『桜の樹の下』（ゲスト：田中圭監督）

入場者数：89人



ボランティアさんの声を集める



過去映画祭の展示も好評だった



nitaki特製のおしゃれな芋煮を囲んで

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 に向けて、これまで一緒に映画祭を作ってきたボランティアの皆さん、そして観客の皆さんと共に山形名物芋煮を囲みながら映画祭を語り合う機会を設けた。YIDFF 2015 上映作品『桜の樹の下』上映と監督をお招きしてのトーク、ボランティアや観客代表の方々と映画祭を振り返る座談会、そして芋煮会の三部構成とした。同時に会場内には第1回目からの映画祭を写真や記事で振り返る展示を行った。トークと座談会のファシリテーションおよび展示の全てを、映画作家や画家、研究者などで構成されたドキュメンテーションを主な活動とする団体NOOKと協働して行った。山形で国際映画祭を開催する意義を様々な視点から確認する機会となった。



山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 「ともにある Cinema with Us」プレ企画
映画『SHARING』の挑戦 ~「映画」と「エンターテインメント」と「3.11」

開催日：2017年2月25日 [土] ~3月3日 [金]

会場・共催：フォーラム山形

上映作品：『SHARING』 『あれから』

入場者数：183人



6年を経過しても今尚関心は高い



三者それぞれの被災地との関わり



カウンセラーから見る当事者性とは

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 特集プログラム「ともにある Cinema with Us」の開催を周知する目的で、東日本大震災を題材とした劇映画の上映と有識者によるトークを行った。震災後、様々な状況と感情が交錯する中で、「映画」はこうした現状にどのように作用するのか、その問いを広く多くの観客の皆さんと共有する機会となった。新作撮影の都合で急遽来形が叶わなくなってしまった篠崎誠監督に代わり、仙台短編映画祭事務局、怪談作家、心理カウンセラーの方をお招きして、それぞれの立場、経験からお話をいただいた。「あの日」に対して、まさに「映画」でしか表現し得ない想像力を駆使した『SHARING』という作品は、震災の当事者性や、震災を何らかの創作物で表現することの危うさと意味についてなど、登壇者だけでなく、観客の中にも非常に重要な思索を喚起したようであった。

ポスター・チラシの製作・設置

■映画祭の開催告知および作品募集については（4）作品募集・受付業務で述べたとおり。また3つのイベント（「山の恵みの映画たち 2016」「私のドキュやま 大芋煮会」「映画『SHARING』の挑戦」）や「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ上映&ディスカッション」、「ピアノ de シネマ」「金曜上映会震災特別プログラム」などの宣伝チラシにおいて「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017」開催告知を掲載し、周知に努めた。詳細は以下のとおり。

上映企画等チラシ	配布部数
「やまがたの山語り 山の恵みの映画たち 2016」チラシ	17,000部
「私のドキュやま 大芋煮会 ―映画祭を語る―」チラシ	800部
「映画『SHARING』の挑戦」チラシ	8,000部
「3.11記録映像のこれまで、これから 2016」チラシ	800部
「柳下美恵のピアノ de シネマ」チラシ	35,000部
「金曜上映会 震災特別プログラム 波のした、土のうえ」チラシ	400部

公式ウェブサイト及びメールマガジン等、インターネットを利用した広報活動

■公式ウェブサイトでは週一回の更新ペースで最新情報を掲載。不特定多数の方に山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 の開催と日常的活動をPRし、周知に努めた。また、メール配信システムによる『YIDFFニュース』を日本語版、英語版の2パターン制作し、月一回定期配信、海外の映画祭事情などの面白コラムと共に映画祭情報希望者に提供した。その他、Twitterによる双方向情報発信システムを活用し、PRに努めた。YIDFF 2013 開催時に開設した公式ブログは、開催期間のリアルタイムによる情報発信のためのものであったため、今年度は休止した。2017年6月より再稼働予定である。

YIDFFオフィシャルサイト [URL : www.yidff.jp]

【アクセス解析】

期間：2016年4月から2017年3月まで（12ヶ月）

訪問者 184,287人 （前準備年比 95.2%）

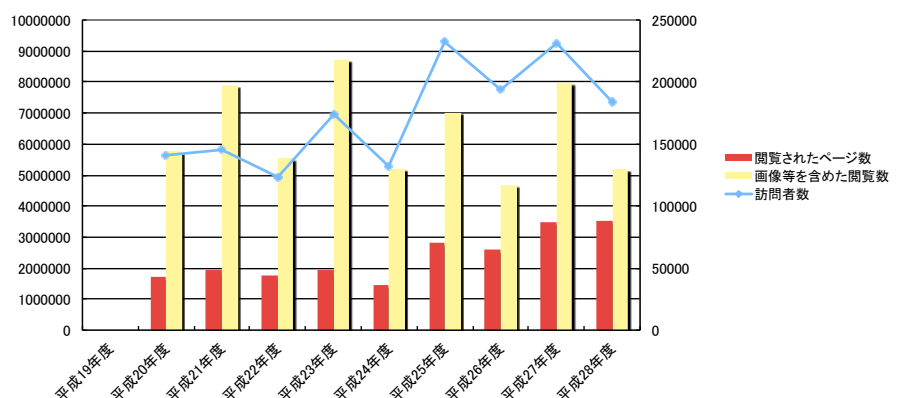
閲覧されたページ数 3,530,966件 （前準備年比 136.5%）

画像等を含めた閲覧数 5,189,368件 （前準備年比 110.8%）



過去の開催状況を網羅したデータベース

公式サイトアクセス解析



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
訪問者数	データ無	140,566	145,300	123,444	174,140	132,467	232,453
閲覧ページ数	データ無	1,708,680	1,955,122	1,747,624	1,917,144	1,464,839	2,804,398
画像を含む閲覧数	データ無	5,751,687	7,878,738	5,533,004	8,705,025	8,207,973	7,021,634

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
訪問者数	193,669	231,636	184,287
閲覧ページ数	2,587,713	3,492,888	3,530,966
画像を含む閲覧数	4,684,397	7,955,964	5,189,368

メールマガジン『YIDFFニュース』月1回発行（日本語版、英語版）

■多種多様な上映会情報に加え、人気コーナー「事務局より」では関係識者によるコラムなども掲載。その他トピック記事などを配信した。

【実登録者数】 ※2016年3月現在

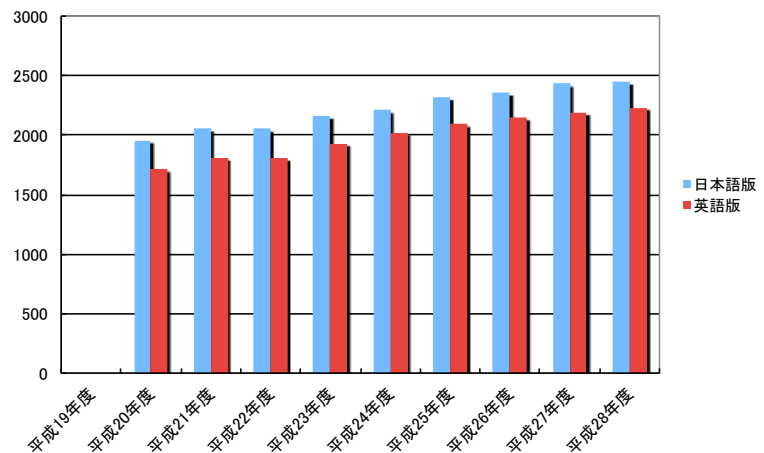
日本語版 **2,449人**（前準備年比 103.9%）

英語版 **2,231人**（前準備年比 104.0%）



映画祭の最新情報がお手軽に受け取れる

メールマガジン登録者数

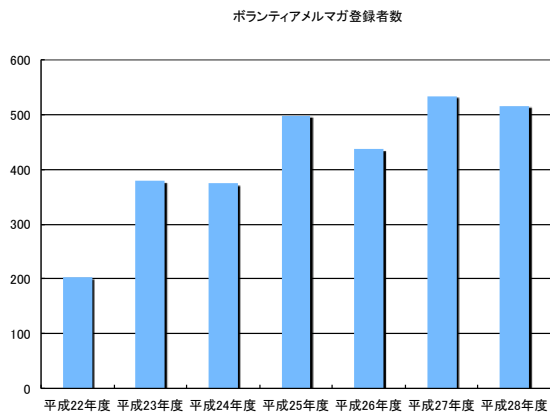


	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日本語版	データ無	1,958	2,056	2,052	2,163	2,209	2,320
英語版	データ無	1,712	1,808	1,806	1,930	2,018	2,090

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
日本語版	2,357	2,431	2,449
英語版	2,145	2,190	2,231

ボランティアメールマガジン『ボラマガ!』月1回発行

日本語版のみ **516人** (前準備年比 118.1%)



ボランティア情報の他、上映会情報も充実

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
登録者数	204	379	374	498	473	534	516

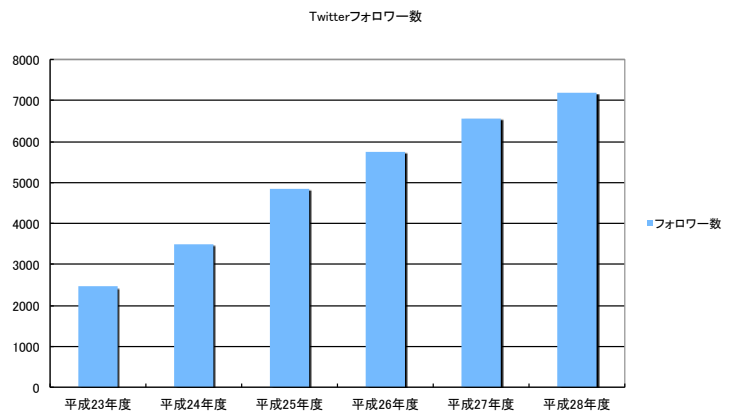
YIDFF公式Twitter アカウント名 : yidff_8989

■ 上映情報の発信などで、当日の集客に結びつく成果を上げた。

フォロワー数 **7,186人** (前準備年比 125.0%)



小まめな情報発信がウリ



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
フォロワー数	2,452	3,502	4,847	5,751	6,566	7,186

YIDFF公式Facebook URL : <https://www.facebook.com/yidff/>

■ 映画祭公式のFacebookページを運用した。国内はもちろんのこと海外への情報発信に力を入れ、日本語英語両並記とした。作品募集呼びかけを重点的に行った。

いいね数 **1,387人**

映画祭情報紙『ドキュやま!』の発行

■映画祭 2017 の情報やライブラリー作品上映情報などを掲載する映画祭情報紙『ドキュやま!』を制作した。山形市内を中心とした県内各所に配布。市民への情報告知ならびに映画祭の認知度アップを図ることを目的としている。恒例の金曜上映会情報のほか、今年度はイベントなどの事後報告を、躍動感のある写真と文章で紹介し、日常的に行っている映像文化振興活動を広く知ってもらう工夫を行った。市内の飲食店や書店などの協力により、各店舗に設置していることから、映画ファンのみならず、これまで映画祭に足を運んだことのない一般市民に対しても広く情報を発信できる媒体となっている。

判型：A4サイズ四つ折り 発行：年間5回（偶数月1日）

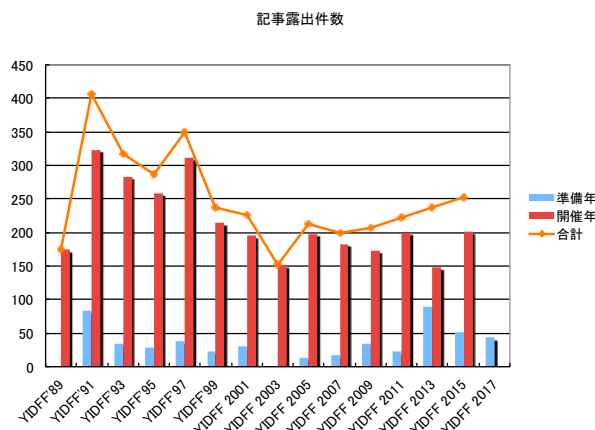
部数：各回7,000部配布（年間35,000部配布）



パブリシティの設定

■マスコミ各社に対して、映画祭開催に関する情報や注目トピックについて情報を発信した。主にプレス・リリースという形により、記事として取り上げてもらえるように営業活動を展開。また、作品募集ポスター発表などの重要事項については記者会見を行った。これらの活動により、新聞・雑誌記事、テレビ・ウェブニュースとして露出を果たした。

記事露出件数 43件（前準備年比84.3%）



【記者会見の開催】

◇作品募集ポスターデザイン発表記者会見

[8月4日 会場：霞城セントラル3F 山形市保健センター視聴覚室]

	YIDFF'89	YIDFF'91	YIDFF'93	YIDFF'95	YIDFF'97	YIDFF'99	YIDFF2001
準備年	データ無	83	35	29	38	23	31
開催年	174	323	283	258	311	214	195
合計	174	406	287	287	349	237	226

	YIDFF2003	YIDFF2005	YIDFF2007	YIDFF2009	YIDFF2011	YIDFF2013	YIDFF2015	YIDFF2017
データ無		14	17	34	22	89	51	43
	151	198	183	173	200	148	201	
	151	212	200	207	222	237	252	

□記事露出一覧

掲載日	掲載紙	記事見出し
2016年		
4月8日	朝日新聞	住めば映画の都 住んで楽しんでそして参加して
4月27日	ZERO☆23 5月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#01
5月22日	山形新聞	山形ドキュメンタリー映画祭総会 プレイベント開催決定
5月27日	ZERO☆23 6月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#02
6月15日	山形新聞	山形国際ドキュメンタリー映画祭 昨年の来場者アンケート 観客2割 観光も満喫 想定上回る経済効果 裏付け
6月27日	ZERO☆23 7月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#03
7月1日	山形新聞	「ほかいびと 伊那の井月」山形で23、24日上映会 芭蕉を尊敬「放浪俳人」描く 旅の生涯支えた農村
7月7日	web:webDISE	山形国際ドキュメンタリー映画祭が臨時職員募集
7月24日	山形新聞	芭蕉への憧れ 俳人・井月「ほかいびと」上映 北村監督と主演の田中さん 山形で作品への思い
7月25日	山形新聞	来月6、7日・山形 市民映画学校「昭和を駆け抜けた男たち」 4作品、エネルギー体感 裕次郎や勝新 黄金期より抜きの楽しさ
7月27日	ZERO☆23 8月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#04
8月1日	山形新聞	伝説のカレーを「再現」 上山で食べる会 小川監督の秘伝の味 映画祭での提供めざす
8月5日	山形新聞	一人一人 人生の物語 来年の山形・ドキュメンタリー映画祭 募集ポスターに村上さん（芸工大）作品
8月5日	読売新聞	山形国際ドキュメンタリー映画祭 来年10月5～12日開催 来月1日から作品募集
8月16日	山形新聞	山の恵みの映画たち 魅力あふれる世界① 土地を守り次へつなぐ 女性マタギ 蛭原紘子さん
8月17日	山形新聞	山の恵みの映画たち 魅力あふれる世界② 自然の中で生きること 自然エネルギーを研究 東北芸術工科大教授 三浦秀一さん
8月18日	山形新聞	山の恵みの映画たち 魅力あふれる世界③ 貴重な偶然の出会い 米国の三大トレイルを踏破 斉藤正史さん
8月27日	ZERO☆23 9月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#05
9月1日	朝日新聞	山形ドキュメンタリー映画祭、来年10月5日開幕
9月2日	山形新聞	今月10日 ドキュメンタリー映画祭イベント 無声映画に生演奏の試み 作曲家・鈴木さん（山形） クマ狩りの映像彩るバイオリン
9月10日	山形新聞	スクリーンに「山の恵み」 ドキュメンタリー映画祭 山形でイベント開幕
9月16日	山形新聞	提言 一緒に作ろう祝祭空間 面白いこと便乗を期待 新しい発見と感動 山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局次長 日下部克喜
9月16日	web:映画ナタリー	山形国際ドキュメンタリー映画祭受賞作など約70本の記録映画を東京で上映
9月27日	ZERO☆23 10月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#06
10月10日	山形新聞	築70年の石蔵が夜のシアターに 寒河江のレストラン、16日「ベルリン 天使の詩」上映 山形国際ドキュメンタリー映画祭と連携
10月18日	web:International Competition	Yamagata International Documentary Film Festival 2017
10月27日	ZERO☆23 11月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#07

掲載日	掲載紙	記事見出し
11月2日	山形新聞	国際ドキュメンタリー映画祭 多彩な視点で考える 山形で5、6日 座談会や大震災記録討論
11月7日	山形新聞	震災記録 映像の役割は 山形でディスカッション 「3.11」次代への伝え方提案
11月27日	ZERO☆23 12月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#08
12月27日	ZERO☆23 1月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#09
2017年		
1月21日	山形新聞	28日・山形 無声映画、ピアノとともに 広がる解釈 楽しく想像 柳下さん魅力語る 「画面が楽譜」生演奏
1月21日	山形新聞	短く、分かりやすく 山形大生 日本語字幕を担当
1月21日	山形新聞	サイレント映画 ピアノの調べと 28日、山形で3作品上映
1月26日	山形新聞	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2部門に応募692本 中間集計
1月27日	ZERO☆23 2月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#10
2月11日	山形新聞	ドキュメンタリー映画祭プレ企画 6年がたつ 震災を考える 山形・25日から葛藤描いた作品上映、トークも
2月15日	朝日新聞	お別れ5校 児童らが映画に 福島・伊達市、山形の団体企画で 監督も出演も各校4分つなぐ
2月19日	河北新報	あの日 その後 映し続ける 山形・映画祭主催NPO 記録作品保存に力 25日から上映会
2月27日	ZERO☆23 2月号	COLUMN 映画の処方箋 SCENE#11
3月3日	山形新聞	山形国際ドキュメンタリー映画祭プレイベント「SHARING」上映トーク 震災表現していいのか 葛藤、「後の世代へのバトンに」
3月9日	web:real local	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 ① 【作品募集】2部門で作品募集中
3月21日	web:ARMACAD	The Fifteenth Yamagata International Documentary Film Festival, 5-12 October 2017, Japan

その他の広報宣伝活動

ラジオ出演

■各ラジオ局の番組内に山形国際ドキュメンタリー映画祭の専門コーナーを設け、事務局員が出演する形で映画祭の紹介を行った。

【ラジオ・モンスター】

- 毎月第1木曜日 午後1時 「Mon-brun モンブラン」内
「ドキュメンタリーでドキュドキュ」コーナー出演（約15～20分）
内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報

雑誌連載

■山形県内で最も多くの販売実績を持つ「月刊山形ZERO★23」にてコラム「映画の処方箋」を連載した。映画祭の楽しみ方とおすすめの映画紹介、イベント紹介コーナーにて各種主催上映企画を紹介した。

【月刊山形 ZERO★23】

- 毎月27日発売
「映画の処方箋」（1ページ）
内容：映画祭の楽しみ方紹介、おすすめ映画紹介、上映イベント紹介

[5] 上映会・鑑賞会推進

(1) 市民・県民の様々な年代層に対する、所蔵作品を中心とした鑑賞機会の創出

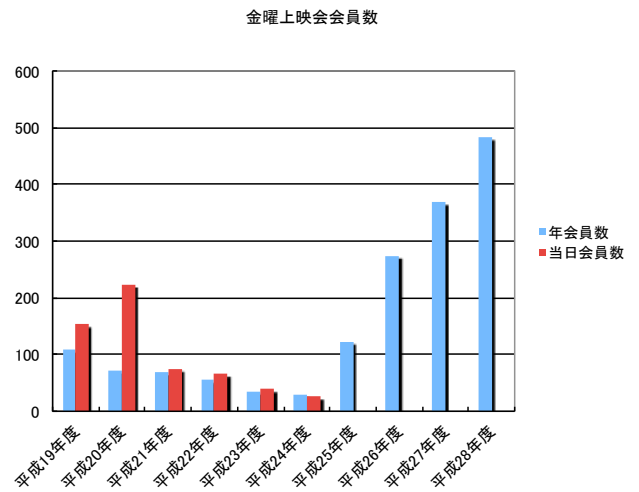
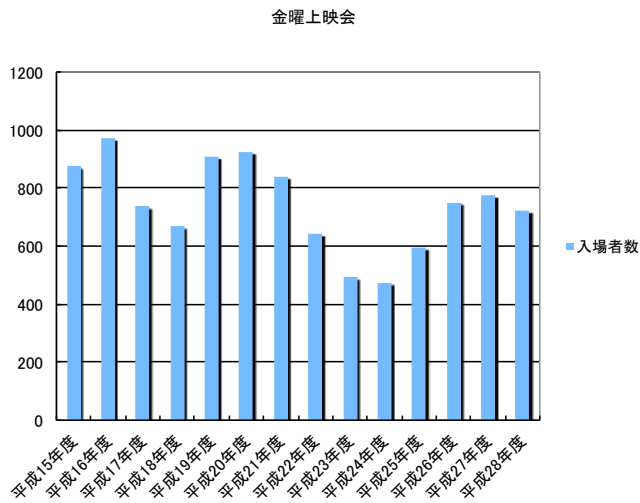
金曜上映会

■山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを会場とし、映画祭所蔵作品を始め、一般的には鑑賞機会が少ない作品の上映を行い、市民県民に対して貴重な映像に親しむ機会を設けた。また、金曜上映会特別版としてゲストを招いたトーク付き上映なども行った。平成25年度より会員登録を無料化。

□月2回金曜 計22回開催（「シネマ通りの夜」開催のため、9月は休映）

年間入場者数 **723人**（前準備年比 96.3%）

会員数 **482人**（前準備年比 176.0%）



	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
入場者数	874	971	736	668	908	925	840
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
入場者数	643	493	475	596	751	775	723

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
会員数	108	72	69	55	35	30	123
当日会員数	153	223	75	66	39	26	—
	平成26年度	平成27年度	平成28年度				
会員数	274	368	482				
当日会員数	—	—	—				

開催日	タイトル・上映作品	入場者数
4月8日	〈YIDFF 2015 アンコール：子どもたちのいる場所〉『離開』『ミニ・ジャパンの子供たち』	47人
4月22日	〈アンダーグラウンド・オーケストラ〉『アンダーグラウンド・オーケストラ』	33人
5月13日	〈YIDFF 2015 アンコール：記憶の断片〉『パラぐらい、記憶の断片』『私と運転席の男たち』	44人
5月22日	〈YIDFF 2015 アンコール：むらまつり〉『銅山の村』『頑固な夢』	40人
6月10日	〈時の記念日〉『時の愛撫』『時は名前を持たない』	47人
6月17日	〈YIDFF 2015 アンコール：革命まで〉『革命まで』	28人
7月8日	〈フィルムのなかのやまがた：山寺編〉『出羽路』『重要文化財 根本中堂』『東北の霊場 山寺』	43人
7月22日	〈フィルムのなかのやまがた：蔵王と花笠まつり編〉『新日本名所紀行 蔵王』『広報映画No.9 八森の夏季学生村』『花笠踊考』	34人
8月19日	〈311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ選：平田潤子監督特集〉 『なにやどやら—陸中・小山内の盆唄—』『語りえぬ福島の声を届けるために—詩人・及川俊哉 現代祝詞をよむ—』	27人
8月26日	〈YIDFF 2015 アンコール：帰り着く場所〉『船が帰り着く時』『ミーナーについてのお話』	27人
10月7日	〈台湾、太陽花学生運動〉『太陽花占拠』『青年の海—四人の通信教育生たち—』	26人
10月28日	金曜上映会出張版〈フィルムのなかのやまがた〉『山形市広報ニュースNo.1』『のびゆく山形 北部編』『のびゆく山形 南部編』	25人
11月18日	〈台湾、先住民と私 1〉『テラキスの帰郷』『神聖なる真実の儀式』	38人
11月25日	〈台湾、先住民と私 2〉『これぞ人生、これぞバンツァーの民』『酒祭の男たち』	21人
12月9日	〈多様な性：LGBTを生きる 1〉『刑法175条』	19人
12月16日	〈多様な性：LGBTを生きる 2〉『コーナーズ』『太った牛の愚かな歩み』	20人
1月13日	〈ドキュメンタリー映画の父、ロバート&フラハティ〉『アラン島の小舟』『アラン』	50人
1月27日	〈小川紳介監督を偲ぶ〉『三里塚・辺田部落』	28人
2月10日	〈イラク零年 1〉『祖国—イラク零年（第1部）』	20人
2月17日	〈イラク零年 2〉『祖国—イラク零年（第2部）』『イラク—ヤシの影で』	19人
3月10日	〈物語る男たち〉『あなたが去ってから』『殊勲十字章』	23人
3月24日	〈震災特別プログラム「波のした、土のうえ」〉『波のした、土のうえ』 ※瀬尾夏美監督トーク	64人



ほぼ満席の場内



瀬尾監督の誠実な語り口



絵画作品の展示も行われた

山形大学図書館上映（不定期）

■山形大学との協力関係のもと、学生、教職員、周辺住民を対象として映画祭所蔵作品の上映会を行った。会場となるシアタールームが耐震工事のため使用できず、1回のみ開催となってしまった。昨年度開催から時間を経ての上映会であったが、平常通りの集客があり、本上映会が定着してきていることをうかがわせた。今回は東南アジアがご専門の人文学部今村真央准教授に解説をお願いした。



地図を示しながらの今村先生による解説

山形大学図書館上映会 特別版 『空低く 大地高し』上映会

開催日：2017年2月17日【金】

会場：山形大学小白川図書館シアタールーム

入場者数：16人



東日本大震災被災者を対象とした無料上映会

■東日本大震災で被災した方々に「映画」を無償で届ける活動を行った。当方を含む、趣旨に賛同した団体を構成する「シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」として、福島県を山形県映画センターと共同で担当。その他、当法人正会員より「映画とスポーツを連動させた被災地支援ができないものか」と相談を受け、体を動かしたくなる映画祭作品を軸とした上映会を企画した。

総入場者数 790人

上映会件数 9件

開催日	開催市町村	会場・上映作品	入場者数
6月24日	福島県三春町	斎藤里内応急仮設住宅集会所 『青春ララ隊』	10人
6月24日	福島県三春町	狐田応急仮設住宅集会所 『青春ララ隊』	13人
7月18日	福島県伊達市梁川町	梁川小学校 『ONE PIECE THE MOVIE』	58人
9月11日	福島県南相馬市原町区	朝日座 『アメリカン・スナイパー』	20人
11月6日	福島県南相馬市原町区	朝日座 『バケモノの子』	16人
12月17日	福島県伊達市梁川町	梁川小学校 『世界の果ての通学路』	40人
1月28日	福島県南相馬市原町区	原町生涯学習センター 『映画ポケモン』	152人
2月12日	福島県相馬市	はまなす館 『映画ポケモン』	179人
2月26日	福島県会津若松市	県立博物館講堂 『映画ポケモン』	302人



正会員さんが呼びかけ人となって実現した



上映後に運動してリフレッシュ



梁川小に近隣4校が統合される



みんな大好きポケモン上映

(2) 青少年に対する映像教育の推進

若年層を中心とした上映会活動の実施



「柳下美恵のピアノ de シネマ」

開催日：2017年1月28日【土】

会場：山形ビッグウイング2F 大会議室

主催：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

一般社団法人 山形コンベンションビューロー

山形大学人文学部附属映像文化研究所

協賛：地域音楽文化パートナー富岡本店

協力：喜劇映画研究会、東京国立近代美術館フィルムセンター、山形市創

造都市推進協議会、おやこ映画の会カンガルーのポケット

後援：山形市、山形市教育委員会

参加者：201人（第一部114人、第二部87人）

■ 大人も子どもも楽しめる、ピアノ生演奏付きサイレント映画上映会の開催。2017年1月28日【土】3者共催により、「柳下美恵のピアノ de シネマ」を以下の趣旨と内容で実施した。

【趣旨】

映像文化の活動が盛んな山形で、古くて新しい映画の楽しみ方を、子どもから大人まで幅広い年代の多くの市民の方々と共有したいという思いで、「ピアノ de シネマ」上映会を開催した。

【内容】

古き良き時代のサイレント映画の傑作にピアノ生演奏を付けて上映し、幅広い年代層の市民に映像と音楽によるライブを楽しんでいただく企画。

★第一部：親子で楽しめるプログラム 10:30～

サム・テイラー監督、ハロルド・ロイド主演『ロイドの福の神』（1926年/53分/アメリカ）

バスター・キートン監督&主演『ハイ・サイン』（1921年/18分/アメリカ）

★第二部：大人向けプログラム 13:00～

フランク・ボゼーギ監督『なまけもの』（1925年/79分/アメリカ）

■ ピアノ伴奏：柳下美恵さん（サイレント映画ピアニスト）

■ 参加料（一部と二部共通前売り券）：おとな1,000円（当日1,200円）

※1枚のチケットで一部と二部の両方参加可能

子ども（高校生以下）無料



協賛のレンタルピアノの調律



21年ぶりに同じ会場で演奏する柳下さん



投影字幕は山大学生が翻訳した



山大大久保先生とトーク！

平成28年度復興庁「心の復興」事業
 「やながわ未来シネマ ぼくたちの通学路 わたしたちの学校」

■山形県映画センターとの共同にて、平成28年度をもって閉校する福島県伊達市の小学校5校で、デジタルカメラによるコマ撮りのワークショップを行なった。完成した映像は当日試写したほか、編集してまとめたものを、後日全児童および教育委員会に配布した。

◇開催日程・場所

11月29日【火】	白根小学校	参加者：児童20人、教員5人
11月30日【水】	山舟生小学校	参加者：児童12人、教員4人
12月5日【月】	富野小学校	参加者：児童23人、教員5人
12月7日【水】	五十沢小学校	参加者：児童23人、教員7人
12月19日【月】	大枝小学校	参加者：児童16人、教員5人



レッツ！コマ撮り！



ピカピカ手法も駆使しながら



コマ撮りはアイデアが大事



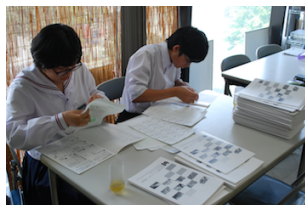
どんな風に撮れたかな

職場体験受け入れ

■山形市内の中学校からの要請を受け、映画祭事務局にて職場体験を受け入れた。若年層に対する映画祭の広報も兼ねる。2006年から継続して定期的に受け入れを行っている。



これは35mmフィルム映写機です



単純作業も大事な仕事

山形市立第三中学校（1人）

受入日：2016年5月11日～12日

体験内容：資料整理、上映会補助、資料印刷など



ここに映画が1万5000本も!?



ナンバリングは、こうっ！

山形市立蔵王第一中学校（2人）

受入日：2016年5月24日～26日

体験内容：資料整理、映写体験、映像制作など

インターンシップ生受け入れ

■山形大学からインターンシップ生を受け入れ、事務局の日常的な事務作業、イベント運営補助等のサポート業務に任じ、必要なものについてはその実績評価を大学に報告した。

山形大学 人文学部法経政策学科3年（1人）

期間：2016年8月22日～26日

主な業務：広報活動（マスコミ訪問）、事務作業全般

[6] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業

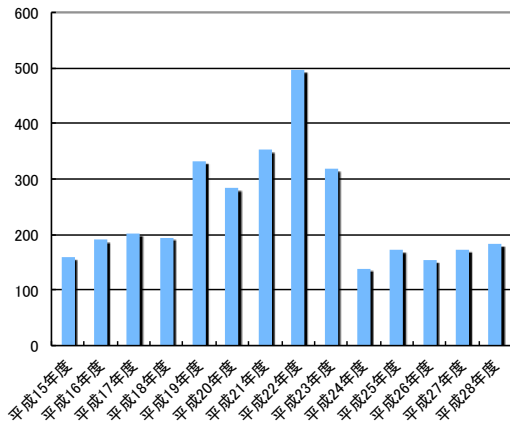
(1) ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービス

■ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービスを市民に提供した。

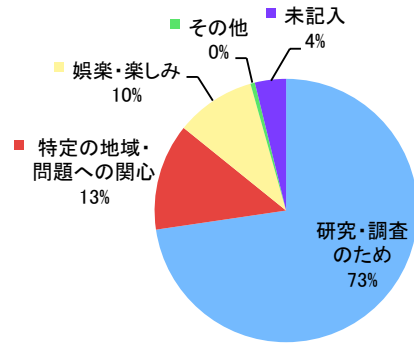
年間利用者数 **183人** (前準備年比118.8%)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
利用者数	159	190	202	195	332	283	352
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用者数	496	318	139	172	154	173	183

ビデオブース利用者



【2016 利用目的別集計グラフ】



(2) 作品貸出リスト普及と貸出推進

◇県内での作品紹介・普及活動

■県内の各団体を直接訪問し、貸出可能な収蔵作品リストを通じ、上映促進を図った。その結果、寒河江市の佐藤繊維株式会社が経営するセレクトショップGEAにて定期上映会開催が実現し、8月より月一回のペースにて映画上映が行われた。インターナショナル・コンペティション上映作品からはYIDFF 2009『RIP! リミックス宣言』を上映した。

◇全国の作品貸出拡大

■公式サイト、作品貸出リストの配布やメールマガジンなどを通じ、全国に作品貸出を呼びかけた。

年間貸出件数 **20件** (前準備年比105%) 年間貸出作品数 **34作品** (前準備年比103%)

貸出料総計 **1,035,000円** (前準備年比94.8%) ※うち正会員割引なし、複数貸出による割引13件

貸出先：山形、青森、岩手、長野、群馬、東京、神奈川、大阪、兵庫、岡山、広島

自主上映、上映施設、文化施設、映画祭、大学等

非商業上映権を有しているドキュメンタリー映画の貸出や上映などによる収益の半分を制作者へ還元

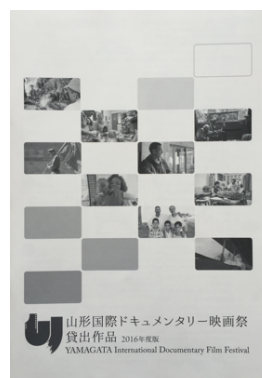
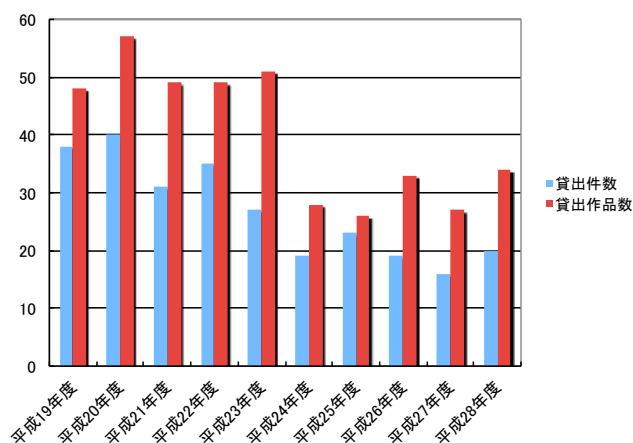
[還元：16件] (監督個人及び製作・配給会社が複数の作品について権利を保持しているケースがあり、作品数と還元件数は一致しない)

■所蔵作品についての情報をWebサイトに掲載し、必要に応じて作品貸出リストを郵送した。

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
貸出件数	38	40	31	35	27	19	23
貸出作品数	48	57	49	49	51	28	26

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
貸出件数	19	16	20
貸出作品数	33	27	34

ライブラリー作品年間貸出件数



作品貸出リスト [2016年版]

(3) 所蔵作品に基づく研究活動とサポート

山形大学人文学部によるライブラリー収蔵作品を資料とした学術的研究の補助

■山形大学人文学部に発足した映像文化研究所の研究活動の補助として、フィルムライブラリー収蔵の東欧作品についての資料準備を行った。また東南アジア研究の分野においても、フィルムライブラリー貸出作品（主にリティ・パン作品）の鑑賞がレポート提出と共に課題として専門の授業で取り上げられた。さらに、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 の期間中には、東南アジアの映画作品について、研究者を招いた国際シンポジウムの開催を予定しており、その準備について協力を行なった。

[7] 映像文化推進事業

平成28年度売上実績 **6,681,413円** (前準備年比124%)

■映像文化の推進を目的として、県内外各地に向けて自主上映の活性化を働きかける営業活動及び請負による映写業務等映画上映に関わる業務を展開した。また、そこでの関係の構築を通して、映画祭の広報宣伝を含めたPR活動を行った。本年度は、これまでの営業活動に加え、上映会活動による収益増を見込み、上映イベントのチケット販促に力を入れた。その結果として、売上実績は前準備年を上回ることができ、また収支においても黒字決算とすることができた。しかし、粗利の面においては、利益率が50%程度にとどまっており、映写等の利益率の高い仕事をさらに多く請け負うことが必要であろう。

(1) 上映会事業

■映画・映像文化の振興と映画祭の認知度向上を目的として、[2] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 開催準備の項にて言及した各種イベントを展開した。

□「やまがたの山語り 山の恵みの映画たち 2016」 チケット売上額：1,422,538円

(3) 映写業務

■所有する機材やスタッフの技術力を活かし、有料にて映写業務を請負った。

□映写請負業務件数：54件

(2) 上映サポート事業

■映画「無音の叫び声」ほか、各種映画作品を県内各地に紹介し、上映促進をサポートした。上映会を設定した箇所については設定手数料を受け取った。

□上映会設定数：9件

(4) 映像ソフト・機器普及事業

■視聴覚ライブラリー等に対し、団体向著作権処理済DVDソフトを販売した。

□映像ソフト販売件数：3件

(5) その他

■映写機およびプロジェクタ等の機材の修理、メンテナンスを有料にて行った。

□機材修理・メンテナンス件数：5件



大会場にも対応した映像投影



精度の高い35mm映写を目指す

[8] ネットワーク構築事業

(1) ドキュメンタリー作品の上映推進

■様々な地域の方々と連携し、ドキュメンタリー作品等の映画上映の機会を創出することにより、山形国際ドキュメンタリー映画祭への関心を高めることを目的として推進活動を行った。



ドキュメンタリー・ドリーム・ショー山形 in 東京 2016

期間：9月17日 [土] ～10月7日 [金]

主催：山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局 (シネマトリックス)

◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 上映作品を中心に、東京の映画館を会場として約60本近くをおよそ1ヶ月に渡って上映。上映作品監督を招き、連日トークショーも開催。評判となった『祖国ーイラク零年』や小川紳介賞を受賞した『たむろする男たち』など、山形で上映した作品に独自のプログラムを加えた、準備年における恒例企画である。首都圏の観客に対して、本映画祭を周知する絶好の機会となっている。



山形国際ドキュメンタリー映画祭×山形ビエンナーレ2016 シネマ通りの夜

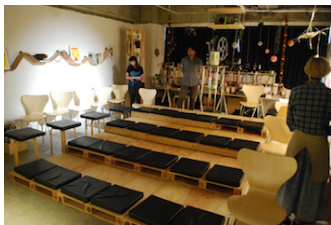
日程：9月9日 [金]、16日 [金]、23日 [金]

主催：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
東北芸術工科大学

会場：BOTA theater

◇東北芸術工科大学との連携のもと、山形ビエンナーレ2016の企画として「シネマ通りの夜」を開催した。映画祭が選定したドキュメンタリー作品の上映に加え、山形ビエンナーレ参加アーティストと映画祭事務局スタッフとのトークイベントを行なった。

- 9月9日 [金] 18:00～ 上映作品：『満山紅柿』
トーク：坂本大三郎（山伏、十三時店主）× 畑あゆみ 入場者数：21人
- 9月16日 [金] 18:00～ 上映作品：『在るこども ジャガーの夜 荒井良二と連絡船 山形じゃあに2012』
トーク：荒井良二（アーティスト、絵本作家）× 黄木優寿 入場者数：38人
- 9月23日 [金] 18:00～ 上映作品：『影のない世界』
トーク：川村亘平齋（影絵師、ガムラン奏者）× 日下部克喜 入場者数：32人



シネマ通りに再び映画の灯を



柿から山の精神文化の話題へ



荒井良二さんの軽妙なトーク！



伝統影絵の世界に聞き入る



山形国際ドキュメンタリー映画祭×セレクトショップGEA GEA Theater 0053

日程：8月5日 [金]、9月3日 [土]、10月16日 [日]、12月11日 [日]

主催：セレクトショップGEA (Sato.S2 株式会社)

協力：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

会場：GEA Restaurant 0053 (寒河江市)

◇寒河江市の佐藤繊維株式会社が展開するセレクトショップGEAとのコラボ上映企画を開催した。一流のシェフが腕をふるった食事と映画が同時に楽しめる食と文化のイベントとして、企画立案・運営などを映画祭がコーディネートした。県内有力企業との初のコラボ企画として新聞でも取り上げられ、注目を集めた。2017年の映画祭本番でもタッグを組む予定である。

- 8月5日 [金] 19:15～ 上映作品：『ハート&クラフト』
トーク：メゾン・エルメスキュレーター 説田礼子さん 入場者数：83人
- 9月3日 [土] 19:00～ 上映作品：『RIP! リミックス宣言』 入場者数：51人
- 10月16日 [日] 19:00～ 上映作品：『ベルリン 天使の詩』 入場者数：60人
- 12月11日 [日] 19:00～ 上映作品：『ロマン・カチャーノフ作品』 入場者数：73人



レストランがシアターに！



特設フードカウンター！



シェフが腕を振った料理



ボルシチを食しながらロシア映画を堪能



山形から生まれた映画 『無音の叫び声 木村迪夫の牧野物語』の展開

■一般の市民や山形の企業や団体が結集し、自主的に製作委員会を立ち上げ、全国からの製作支援金を集め、足掛け5年の準備期間を経て山形からひとつの映画を完成させた。上山に住み、反戦の意思や農と人の係りを問いかけてきた木村迪夫の詩作と人生を辿りながら戦後日本の農業史を見つめ直そうとする映画を、戦後70年に開催された本映画祭2015で初公開できた意義は大きい。完成した作品は市民製作委員会が引き続き全国配給を担い、当映画祭も県内各地や隣県での上映設定や映写等の事業として係り、作品展開普及を支えている。2016年度は、下記の全国各地域で劇場公開や自主上映が展開されており、現在も続いている。

開催日	上映会場	備考
4/2	高島町文化ホールまほら (山形県高島町)	
4/10	長井市民文化会館 (山形県長井市)	
4/9~29	ポレポレ東中野 (東京都中野区)	
4/15	下高井戸シネマ (東京都世田谷区)	優れたドキュメンタリー映画を観る会 vol.32
4/30~5/20	シネマスコレ (愛知県名古屋)	
5/5	小松川区民館ホール (東京都江戸川区)	メイシネマ祭2016
5/21~6/30	川越スカラ座 (埼玉県川越市)	
6/4	若柳総合文化センタードリーム・パル (宮城県栗原市)	
6/5	宮城野区文化センター (宮城県仙台市)	
6/4~24	第七藝術劇場 (大阪府大阪市)	
7/2~8	元町映画館 (兵庫県神戸市)	
7/16	くにたち福祉会館 (東京都国立市)	
8/11	川西町フレンドリープラザ (山形県川西町)	
8/27	サハトベに花ホール (山形県河北町)	
8/28	横須賀市生涯学習センター大学習室 (神奈川県横須賀市)	
9/8~21	横川シネマ (広島県広島市)	
10/1	札幌プラザ2.5 (北海道札幌市)	
11/19~21	柿崎コミュニティプラザ (新潟県上越市)	かきざき映画祭2016
11/26	梅田イーマ (大阪府大阪市)	
1/29	山都町立図書館ホール (熊本県上益城郡山都町)	
2/4~17	横浜シネマリン (神奈川県横浜市)	
2/18~24	フォーラム福島 (福島県福島市)	
3/28~30	シネマテーク高崎 (群馬県高崎市)	第31回高崎映画祭

山形県内の各地域での映画上映の設定

開催日	内容	会場
6/19	『戦場ぬ止み』上映	長井生涯教育プラザ多目的ホール
7/23	『ほかいびと 伊那の井月』上映と対談	山寺芭蕉記念館
7/24	『ほかいびと 伊那の井月』上映と対談	フォーラム山形
8/6～7	優秀映画鑑賞会	山形市中央公民館6Fホール
9/24	山形の古いニュース映像の上映	川西町フレンドリープラザ
10/6	『よみがえりのレシピ』上映と講演	山形ビッグウイング2F交流ホール
12/11	『作るってたのしいな』上映	河北町サハトベに花大ホール
3/5	『鳶監督』上映とトーク	山形市民会館小ホール
3/26	『ふたりの桃源郷』上映	小国町小玉川旧小学校、小国総合開発センター

(2) 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー及び収蔵作品についての情報発信

■昨年度に引き続き、映画祭情報誌「ドキュヤマ！」紙面と公式サイト、およびSNS等にて山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーについての情報発信を行なった。特に、連載を行っているタウン誌「月刊山形 ZERO☆23」紙面でもコラムという形で紹介した。所蔵作品については、その情報を公式サイトに掲載し、また紙媒体においてもフィルムライブラリーにて参照できるように準備を行なった。

※関連事項は [4] フォルムライブラリー活用・作品貸出事業の項目を参照。

(3) 映画祭ネットワークの構築

◇国内活動の成果

■平成28年度は、当法人が映画祭開催と運営を山形市から受け継いでから10年目を臨む年度であった。山形市や山形市民との関係性を深め、なおかつ認定NPO法人として公益性を問われる組織となり、さらに世界からはより刺激的で質の高い映画の祭典であることを期待されているのが山形国際ドキュメンタリー映画祭である。このように当法人は独立した一つの活動組織でありながら、様々な関係性の中でこそ存在し、いきいきと機能すると考える。

いち地方都市において、国際的な映像文化の多様性を確保しようとする試みが、その大部分を地方自治体などの行政組織やローカルな団体、機関や市民との支え合いの中で継続性をもって成されてきたことは、山形の力として誇るべきものであろう。

平成28年度に行なってきた映画祭開催に向けた準備の他に、イベントや様々な上映会や企画事業は、市民や行政、大学、実行委員会、他の文化活動団体や報道機関と協力体制を作りながら実施したものであり、そのことで事業の広がりや新しい成果を生み出してきた。つまり、映画祭に関わる多様な方々の視点を学び、そこから映画祭を改めて見直し、再構築してゆくヒントを得ることができるのだ。他団体との連携による主催事業の充実、新しいネットワーク構築によってもたらされる優れた映像文化の広域的な共有が、当映画祭の活動の根幹であり続けるだろう。この映画祭が山形に存在する意義の多くの部分が、そうした関係性の中で創られたものによって育まれていることを常に意識して活動を進めていきたい。

◇映画祭への参加

- 国内および海外映画祭へ積極的に参加し、交流を深め、情報交換や人脈作りに努めた。
※招聘による参加については、渡航費及び滞在費は現地映画祭持ち。

○なら国際映画祭（奈良市）

期間：9月17日～22日（6日間）

内容：黄木事務局員、畑事務局員が、なら国際映画祭 2016 にボランティアスタッフとして参加した。会場の一つである「尾花座」の会場運営ボランティアとして映画祭のスタッフ、他のボランティアと共に働き、情報収集を行なった。

○Docpoint ドキュメンタリー映画祭（フィンランド・ヘルシンキ）

期間：2017年1月23日～26日（4日間）〔招聘〕

内容：畑事務局員が国際ドキュメンタリー映画祭関係者の一人として招聘された。主に欧州の新作ドキュメンタリー作品を中心に情報収集し、映画祭関係者だけでなくフィンランド映画財団やプロデューサーらとも面談するなど、当地でのネットワーク作りを行なった。

○ロッテルダム国際映画祭（オランダ・ロッテルダム）

期間：2017年1月27日～30日（4日間）〔視察〕

内容：新たな才能の発掘と世界への紹介が主目的のジャンルを問わない大規模映画祭であり、畑事務局員が参加。現地で先鋭的なドキュメンタリー作品と作家情報の収集を精力的に行なった。映画祭運営の特徴についてリサーチすると共に、上映後の作家やプロデューサーらにアプローチし、山形映画祭への応募を促した。

[9] 出版事業

(1) 映画祭関連の発行物の普及・販売

- 映画祭関連の発行物の全国的な普及や販売を行い、映画祭への理解者を増やした。

◇過去書籍の紹介と販売

- 映画祭ホームページ等で、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 関連の出版物をはじめ、過去の映画祭関連出版物の普及・販売をすることで映画祭への理解者を増やすことを目的としている。また、特集カタログは過去出版物も含めて安定的に需要があり、これらのカタログが持つ意義がうかがえる。

◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式カタログ及び2013記録集の普及

- 2015公式カタログ、2013記録集の販売普及を行った。

書籍販売実績 36,600円（前準備年比31.2%）

【書籍別販売内訳】

- 『山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 公式カタログ』
- 『ラテンアメリカ-人々とその時間：記憶、情熱、労働と人生』
- 『アラブをみる-ほどけゆく世界を生きるために』
- 『Double Shadows／二重の影-映画が映画を映すとき』
- 『ともにある Cinema with Us』
- 『やまがたと映画』
- 『未来の記憶のために——クリス・マルケルの旅と闘い』
- 『回到一圈：日台ドキュメンタリーの12年後』
- 『シマ／島、いま-キューバから・が・に・を見る』
- 『映画に（反）対して-ギー・ドウボール特集』ほか



[10] YIDFF 311 ドキュメンタリーフィルムアーカイブ事業

■平成26年11月に開設した、東日本大震災に関わる記録映画を収集・保存する「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」（データベース：<http://www.yidff311docs.jp>）は、本年度も順調に登録作品を増やし、平成29年3月末で96作品が登録されている。また今年には本事業のロゴマークを作成、ウェブサイトもデザインを一新し、海外の方もより使いやすく印象に残る仕様に変更した。10月には、既に登録されている作品のうち、オリジナルの上映用素材がフィルムの短編作品「DOBHOUSE 物質試行52」について、保存用フィルムプリントの作成を行い、当アーカイブに収蔵した。

本アーカイブに関連した映画祭主催の上映活動としては、以下のイベントを行なった。

助成：平成28年度公益信託荘内銀行ふるさと創造基金、平成28年度公益財団法人企業メセナ協議会「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド (GBFund)、平成28年度損保ジャパン日本興亜「SONPOアート・ファンド (企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)、山形市芸術文化協会」

YIDFF 311 ドキュメンタリーフィルムアーカイブ
3.11 映像記録のこれまで、これから 2016
小さな物語の積み重ねから立ち上がるもの
11月6日(日)
KUGURU

上映・ディスカッション

3.11記録映像のこれまで、これから ~小さな物語から立ち上がるもの

開催日：2016年11月6日【日】 会場：とんがりビル kuguru

上映作品：『あの日を生きた私たち』

■11月6日に上映・ディスカッションイベント「3.11映像記録のこれまで、これから2016～小さな物語の積み重ねから立ち上がるもの」を開催。東北芸術工科大学学生が制作した被災者インタビュー記録『あの日を生きた私たち』を上映し、リアス・アーク美術館学芸員の山内宏泰氏ら識者を交えて震災体験の映像記録の意義を議論した。観客のみなさんの議論への参加も活発で、被災者の被災体験や証言を残し、非被災者とともにそれらを分かち合うことの重要性を改めて確認する実りある会となった。



これまでの成果を報告



芸工大作品制作の経緯説明



ゲストたちによるディスカッション



白熱していく議論

フィルムライブラリー 金曜上映会
311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ
震災特別プログラム
波のした、土のうえ
3月24日(金)
14:00,19:00(2回上映) ※上映後、監督トークを予定しています
会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー(山形市グリーンパーク)
観覧料無料(当日受付いたがります。)

金曜上映会

開催日：2016年8月19日【金】

「311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ選」

開催日：2017年3月24日【金】

「震災特別プログラム」

■毎回開催している「金曜上映会」の枠で、8月19日と3月24日に関連作品上映会を行なった（於：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室）。8月は平田潤子監督の登録作品2本『なにやどやら-陸中・小子内の盆唄-』と『語りえぬ福島の声を届けるために-詩人・及川俊哉 現代祝詞をよむ-』を上映した。また3月は小森はるか・瀬尾夏美監督の『波のした、土のうえ』を上映。ゲストに瀬尾夏美監督をお迎えし、自らの記録活動と、復興工事が進む一方で町の景色の変貌に複雑な思いを抱く住民の方々の暮らしや気持ちについてお話いただいた。会場は満席に近く、感想・発言も出て盛り上がった。

[11] 映像文化創造都市推進活動

■ 山形市のユネスコ映像文化創造都市加盟に向けた各種活動に協力した。

【映像文化創造都市に関する会議への参加】

- (1) 2016年4月26日 18:00 創造都市会議@山形市役所
- (2) 6月3日 13:30 創造都市会議@山形市役所
- (3) 6月21日 18:00 試写会と市民映画学校打ち合わせ
- (4) 7月28日 18:00 市民映画学校打ち合わせ
- (5) 9月20日 18:00 『山形の祭り』試写会と市民映画学校打ち合わせ@なごみの里
- (6) 10月6日 12:00 創造都市会議 山形市長との意見交換
- (7) 12月12日 18:30 第四回やまがた市民映画学校試写会@BOTA Theater
- (8) 2017年2月14日 第一回ユネスコ加盟申請部会@山形市役所
- (9) 3月1日 16:00 第二回ユネスコ加盟申請部会@山形市役所
- (10) 3月13日 14:00 第三回ユネスコ加盟申請部会@山形市役所
- (11) 3月21日 14:00 第四回ユネスコ加盟申請部会@山形市役所
- (12) 3月29日 10:00 第五回ユネスコ加盟申請部会@山形市役所

【上映活動協力】

- (1) 2016年8月23日 14:00 『山形鋳物～暮らしのデザインを求めて～』上映@なごみの里

【シンポジウム参加】

- (1) 2016年11月4日 イタリアのボローニャから、前ボローニャ市経済プロモーション局長で、現在はガゼルダ宮殿（世界遺産）の総責任者であるマウロ・フェリコーリ氏を招き、佐藤孝弘山形市長も交えてシンポジウムを開催。

【創造都市山形ルネッサンス短編映画製作事業への協力】

- (1) 映画『山形鋳物～暮らしのデザインを求めて～』制作（英語字幕付き）
- (2) 映画『山形打刃物～暮らしの中の道具～』制作（英語字幕付き）
- (3) 映画『映像と向き合う生き方～卒業生が触れる芸工大生の今～』制作（英語字幕付き）

【山形コマーシャル映像制作への協力】

【やまがた市民映画学校の開催協力】

- (1) 2016年7月17日 第一回やまがた市民映画学校開催協力 内容：『極北のナヌーク』バイオリン演奏付き上映
創造都市ワークショップ 会場：霞城セントラル3F 保健センター視聴覚室
- (2) 2016年8月6～7日 第二回やまがた市民映画学校「優秀映画鑑賞会」開催協力 会場：山形市中央公民館 約500人参加
- (3) 2016年11月19日 第三回やまがた市民映画学校開催協力 内容：『映像で山形ルネッサンスお披露目上映会』を山形市清風荘にて開催。『山形鋳物』『山形打刃物』2作品を上映。佐藤広一監督挨拶、山形鋳物で沸かした珈琲つき。東北芸術工科大学映像学科教授加藤到氏による創造都市ワークショップ。
- (4) 2017年1月21日 第四回やまがた市民映画学校開催協力 内容：『山形のまつり～記録としての映画をひもとく～』
会場：山形市中央公民館4F第会議室 山形シネマクラブ-映像を通じた山形半世紀トーク
- (5) 2017年3月18日 第五回やまがた市民映画学校開催協力 内容：『この空の花-長岡花火物語』上映+シンポジウム
大林宣彦監督と根岸吉太郎監督（東北芸術工科大学学長）による「映画でまち・ひと再発見」
会場：フォーラム山形 主催：大林宣彦監督作品山形上映実行委員会
共催：やまがた市民映画学校ボランティアスタッフ

【創造都市山形 広報リーフレット作成（日英両併記）サポート

【『山形打刃物』『無音の叫び声』（短編）のインドネシア語字幕版の制作協力】

【インドネシアのパプア州にて実施した「Yamagata Film Package to the World事業協力】

山形県と姉妹都市でもあるインドネシアのパプア州で、日本語を学ぶ530人以上の高校生に山形の短編映像を上映する事業に事前協力を行なった。

[12] 映像（撮影・上映）素材デジタル化に伴う研究活動への協力

デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究 最終報告書

■東北芸術工科大学が日本学術振興会による科学研究費助成に採択された「デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究」について、研究調査の支援を行った。5カ年計画の最終年度にあたる平成28年度は研究報告書の作成が主な活動となった。これまでの調査・研究成果、シンポジウムやディスカッションなどの採録を一冊の書籍としてまとめた。また研究成果の一つとして計画に掲げていた自家制作DCPに関するチュートリアルマニュアルも作成した。当映画祭はこれまでの研究に関しての実績報告と国際映画祭の観点からのデジタルシネマ対応についての所見を寄稿した。今回の研究成果は平成29年度以降、デジタルシネマ（および映画全般）の保存に関する調査研究（科研費基盤B採択済み）に引き継がれることになっており、引き続き研究活動への協力を行なっていく予定である。



最終報告書



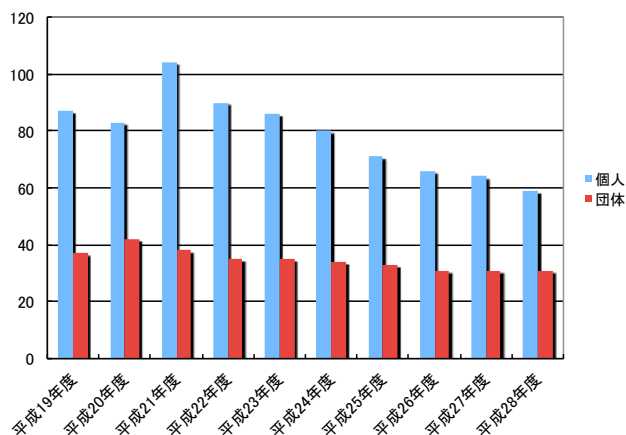
ハンドメイドDCPの作り方

[13] 正会員・賛助会員の拡大

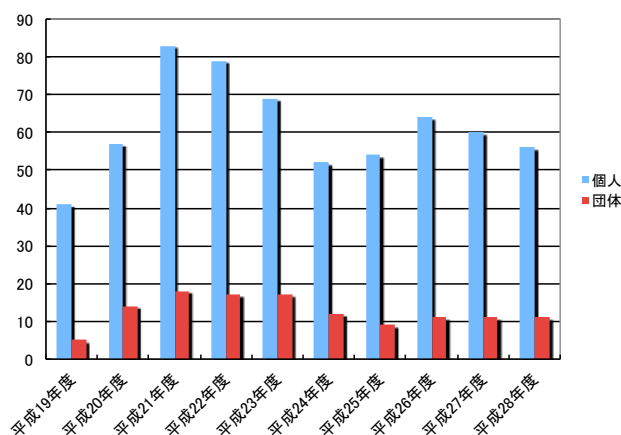
正会員数 89件 [団体31・個人58] (前年比93.7%)

賛助会員数 67件 [団体11・個人56] (前年比94.4%)

正会員数



賛助会員数



正会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	87	83	104	90	86	80	71
団体	37	42	38	35	35	34	33
	平成26年度	平成27年度	平成28年度				
個人	66	64	58				
団体	31	31	31				

賛助会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	41	57	83	79	69	52	54
団体	5	14	18	17	17	12	9
	平成26年度	平成27年度	平成28年度				
個人	64	60	56				
団体	11	11	11				

(1) 正会員・賛助会員の拡大（組織基盤の充実）

■平成28年度は、正会員や賛助会員ともに減少がみられた。NPO法人となって10年を迎えようとする時期でもあり、他団体との連携事業などが活発になってきている現状を生かしつつ、新しい方法も駆使して、次年度に向けて勧誘活動を強化してゆく。

1. 正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレット普及

■正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレットを作成し、イベント時の一般市民への配布や映画祭期間中の観客への配布・会場設置などを行い、会員拡大を図った。

2. 市内・県内における直接的入会の呼びかけ

■映画祭の広報活動・チケット販売依頼や企業協賛依頼などと兼ね合わせ、山形県内の各地で会員勧誘を行った。



会員募集リーフレット

(2) 寄付募集・広報活動

■平成28年度において、寄付募集は、賛助会員の減少も含め、低調な成績となった。認定NPO法人には1年間に3,000円以上の寄付を100件以上確保する条件が付されており、今年度は併せても平均の目標に達しなかった。これまでの5年間の平均は80件強（達成率80%）となっている。今年度末の理事会での議論を経て、来年度は寄付募集のキャンペーン期間を設け、総力で集中的に寄付件数を増やし、目標となる160件の獲得を目指すことが確認された。

寄付総額 **100,000円** [5件] (前準備年比23.7%)

(3) 会報の発行

■ 会報については、平成27年度の最終的な取り決めに従い、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 の開催状況を場面写真を主として構成する冊子の制作に切り替え、これを作成した。正式名称は「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 ビジュアルブックレット」となった。開催データと時系列的に配置した場面写真、ゲスト、上映作品タイトル、協力者、ボランティアなどを掲載した。会員および一般向けに、視覚的に山形映画祭の魅力を発信するツールとなった。

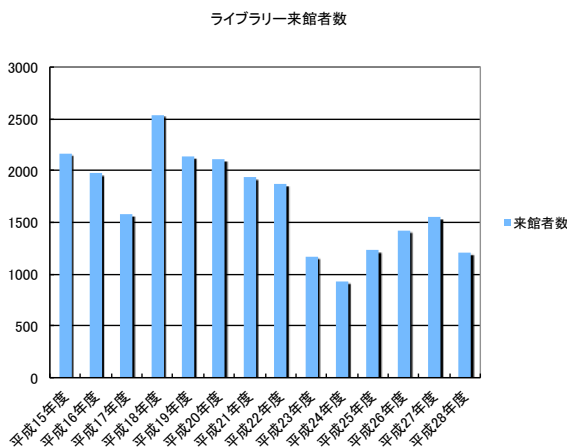


YIDFF 2015 ビジュアルブックレット

[14] 山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー管理業務

■ 財団法人山形コンベンションビューローより、山形ビッグウイング3Fの山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリーの管理業務を受託し、委託業務を遂行した。

館内利用者 **1,210人** (前準備年比84.9%)



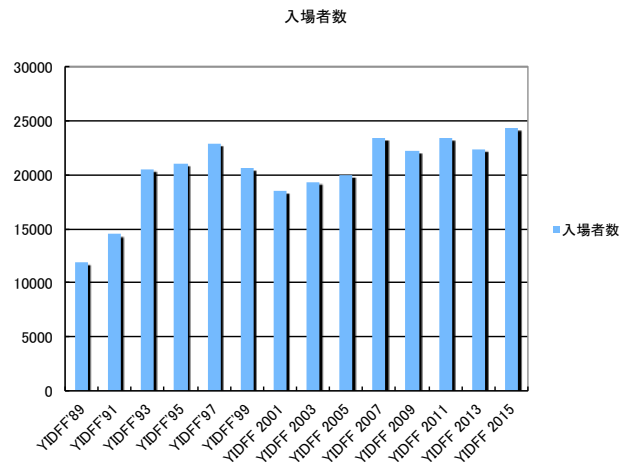
およそ9,000本が誰でも無料で鑑賞できる

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
来館者数	2166	1972	1580	2542	2136	2110	1933
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
来館者数	1871	1172	933	1231	1425	1552	1210

付録

1986	
08-22	市制100周年記念事業計画策定委員会設置
1987	
03-02	同委員会より100周年事業として本映画祭が提案される
05-06	本映画祭の実施決定
1988	
05-12	第一回部会 実施要項決定
06-21	第二回部会 日程決定
08-25	第三回部会
11-21	第四回部会
1989	
01-07	昭和天皇崩御
01-08	平成に改元
02-22	第五回部会 ポスター、映画祭を成功させる会
04-01	消費税施行3%
04-20	第六回部会 予備審査について
06-04	中国天安門事件勃発
07-13	ネットワーク結成準備会
07-14	第七回部会 ノミネート作品 第一回実行委員会
07-29,30	映画祭を成功させる会・ネットワーク総会
	同日より映画祭を記録する映画撮影開始（『映画の都』）
07-31	第二回実行委員会 チケット、券売について
10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '89 開幕
	山形経済同友会第一回明るい山形MVP賞受賞
11-11	ベルリンの壁崩壊
12-20	米軍パナマ侵攻
1990	
05-02	実行委員会設立総会
06-19	第一回実行委員会
08-02	イラク軍クウェート侵攻
09-13	第二回実行委員会
10-03	東西ドイツ統一
1991	
01-17	多国籍軍イラク空爆開始
01-25	第三回実行委員会
03-25	総会
07-16	第四回実行委員会
08-23	第五回実行委員会
09-22	クロアチア紛争
10-07	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '91 開幕
12-25	ソ連崩壊
12-27	第六回実行委員会

入場者数推移

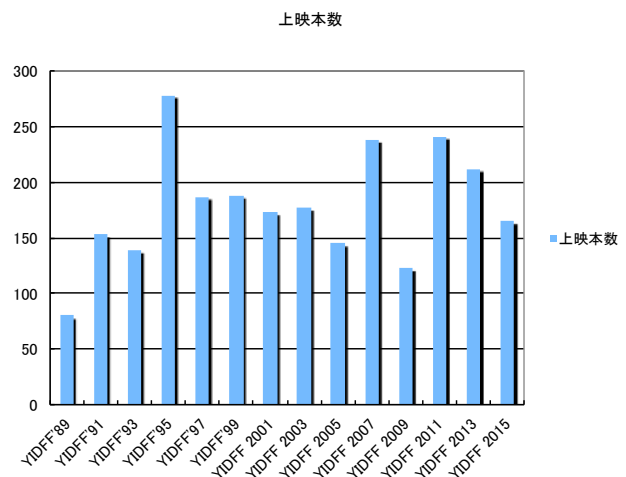


YIDFF '89 授賞式



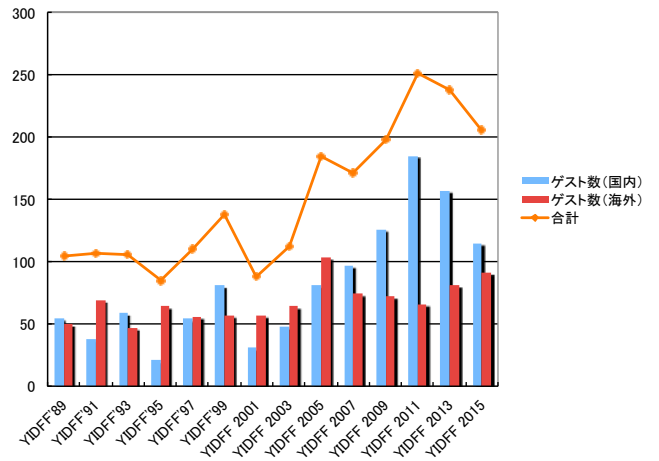
YIDFF '91 (右から) 佐藤真監督、小林茂カメラマン、評論家・山根貞雄さん

上映本数推移



1992	
02-07	小川紳介監督逝去
04-07	ボスニア＝ヘルツェゴビナ紛争始まる
07-01	山形新幹線開業
07-16	第一回実行委員会
09-01	コンペ募集開始
10-23	天皇初の中国訪問
1993	
04-15	コンペ予備選考開始
05-10	総会
05-29	北朝鮮がノドン1号試射
06-09	皇太子結婚
06-19	山形・東京合同予備選考会議
08-09	細川内閣成立、55年体制の崩壊
10-05	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '93 開幕
11-01	欧州連合成立
1994	
05-26	総会
06-27	オウム真理教による松本サリン事件発生
07-08	北朝鮮金日成主席死去
08-29	ロシア軍、旧東ドイツとバルト諸国から撤退
12-16	第一回実行委員会
1995	
01-17	阪神・淡路大震災
03-13	第二回実行委員会
03-20	オウム真理教による地下鉄サリン事件発生
06-05	総会
07-21	第三回実行委員会
09-04	第四回実行委員会
10-03	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '95 開幕
12-21	第五回実行委員会
1996	
01-11	橋本龍太郎内閣発足
01-17	今後の方向性と組織の見直しのために検討委員会発足
02-01	第二回検討委員会（現況と展望）
02-15	第三回検討委員会（専門部会、今年の目標）
03-01	第四回検討委員会（東京事務局合同）
08-23	第五回検討委員会（整理、フィルムライブラリーについて）
04-04	第六回検討委員会（組織、友の会、イベントなど）
05-15	第七回検討委員会（組織、ライブラリー、県内巡回上映）
05-28	第八回検討委員会（映画部会、フェスティバル部会）
07-05	世界初のクローン羊「ドリー」誕生

参加ゲスト数推移



YIDFF '93 先住民シアター



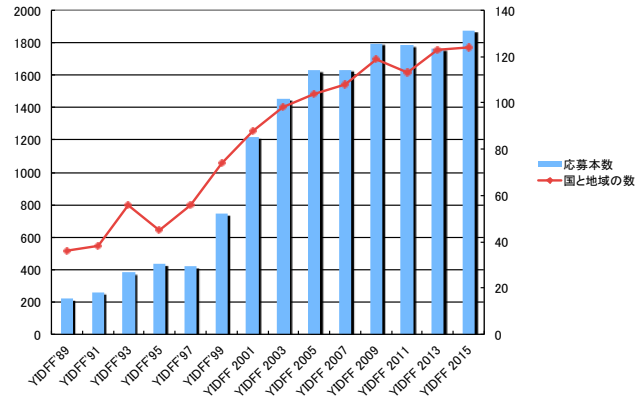
YIDFF '95 中央公民館6Fロビー



YIDFF '95 中央公民館4Fゴザ会場

08-12	第一回実行委員会
09-06	第一回金曜上映会『1000年刻みの日時計』
12-16	第二回実行委員会
1997	
02-20	中国鄧小平死去
03-31	第三回実行委員会
04-22	ペルー日本大使公邸占拠事件
06-07	コンペ最終選考会議
06-10	総会
07-01	香港返還
08-31	ダイアナ英皇太子妃、パリで事故死
09-02	第四回実行委員会、市民賞審査員公募
10-06	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '97 開幕 『マザー・ダオ』フィルム・カット事件 田中哲実行委員長声明文発表
10-08	金正日、朝鮮労働党総書記に就任
12-19	第五回実行委員会
1998	
02-01	日本映画ペンクラブ賞受賞
02-07	長野オリンピック開幕
04-01	日本版金融ビッグバンスタート
05-05	インドネシアで暴動発生
08-31	北朝鮮テポドン試射
12-01	NPO法施行
1999	
01-01	EU単一通貨ユーロ導入
09-21	台湾大地震発生
10-19	山形国際ドキュメンタリー映画祭 '99 開幕
12-04	山形新幹線、新庄へ延伸
2000	
05-07	プーチンがロシア大統領に就任
06-13	朝鮮半島分断後初（55年ぶり）南北首脳会談
10-06	ユーゴスラビア崩壊
2001	
01-06	日本、中央省庁再編
01-20	ジョージ・W・ブッシュ、アメリカ大統領に就任
04-26	小泉内閣成立
09-11	アメリカ同時多発テロ
10-03	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2001 開幕 9.11の影響で来日を取りやめるゲストがでる
10-07	アメリカ軍によるアフガニスタン侵攻開始
11-30	山路ふみ子賞受賞
2002	
06-04	計画概要決定、ポスター・デザイン公募開始
09-01	コンペ、アジア千波万波作品募集開始

応募本数推移



YIDFF '97 受賞者記者会見



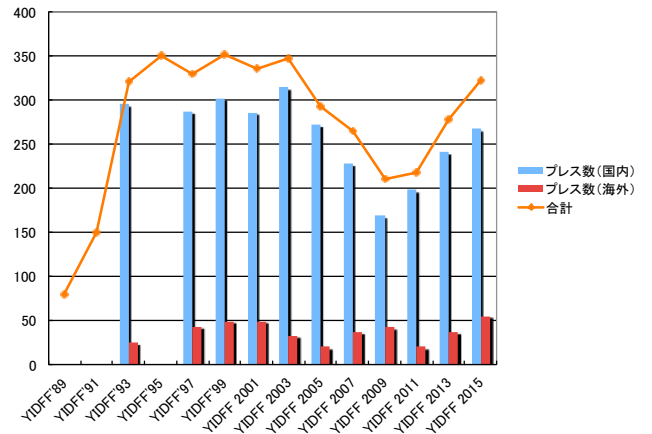
YIDFF '99 ミュース『新しい神様』



YIDFF 2001 香味庵クラブ

09-17	小泉訪朝により北朝鮮が日本人拉致を認める
2003	
01-10	北朝鮮、核拡散防止条約脱退宣言
03-01	中国で新型肺炎SARS大流行
03-31	コンペ作品募集締切
05-31	アジア千波万波応募締切
06-12	コンペ上映作品決定
07-10	市民ボランティア募集開始
07-18	アジア千波万波上映作品決定
10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2003 開幕 関連プログラムとして第18回国民文化祭・やまがた2003 ドキュメンタリー映画フェスティバル日本大展望
2004	
01-19	自衛隊イラク派遣開始
06-01	ポスターデザイン公募締切
09-01	コンペ、アジア千波万波作品募集開始
11-11	パラスティナ解放機構アラファト議長死去
12-26	スマトラ沖地震発生、15万人以上が死亡
2005	
01-01	河北文化賞受賞
04-01	映画祭の長期的展望審議のための常任委員会発足
06-01	コンペ作品決定
07-01	アジア千波万波作品決定
08-01	上映全作品決定
10-01	インドネシア、バリ島で同時爆弾テロ発生
10-07	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005 開幕
2006	
01-16	常任委員会にて映画祭の山形市からの独立を提案
01-24	独立についての検討委員会設置
2-25	世界人口65億人突破
04-01	任意団体として独立、NPO法人化に向け準備開始
05-20	イランで3年ぶりに正式政府発足
09-19	タイで軍事クーデター勃発
10-01	国際交流基金奨励賞受賞
2007	
04-01	特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭発足
08-01	サントリー地域文化賞受賞
10-04	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2007 開幕
2008	
03-21	NHK東北ふるさと賞受賞
05-25	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-20	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2008
11-29	イベント「李香蘭/山口淑子」

参加プレス数推移



YIDFF 2003 蔵オビハチ6面マルチ上映



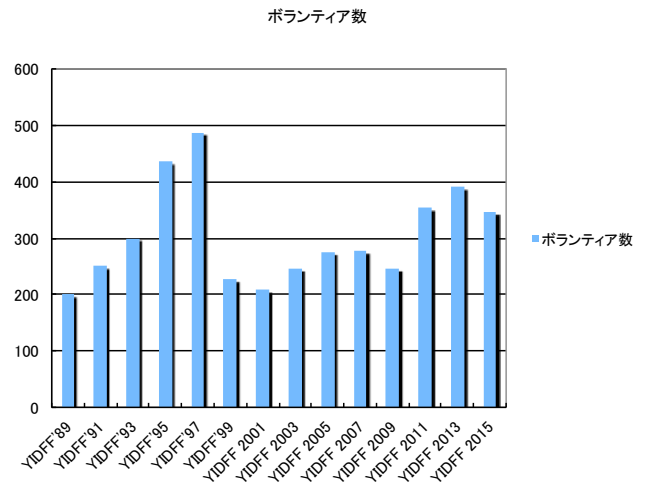
YIDFF 2005 パーティーにて県産酒紹介



YIDFF 2007 小学生とゲストとの交流

12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2009	
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-23	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-20	イベント「ゴジラを撮った男 本多猪四郎特集」
06-23	コンペ上映作品発表記者会見
08-07	アジア上映作品発表記者会見
10-08	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2009 開幕
2010	
05-22	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-18	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2010
10-30	イベント「映画作家ペドロ・コスタ」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2011	
03-11	東日本大震災発生
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-21	総会
06-20	コンペ上映作品発表記者会見
06-25	イベント「井上ひさしが愛した女優 高峰秀子」
07-09	イベント「アピチャップン・ウィーラセタクンの世界」
07-26	アジア上映作品発表記者会見
07-26	第29回川喜多賞受賞
08-06	イベント「昭和が惚れた女優たち」
10-06	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2011 開幕
2012	
05-19	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
08-18	「ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2012」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2013	
02-14	第3回地域再生大賞・準大賞受賞
03-01	「ともにある Cinema with Us 忘れないために」開催
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-18	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-19	コンペ上映作品発表記者会見
07-27	イベント「映画作家 小川紳介 山形を獲る」
07-29	アジア上映作品発表記者会見
10-01	「来てけらっしゃい」東京記者会見
10-08	「認定NPO法人」に認定

参加ボランティア数推移



YIDFF 2009 さよならミュージズ



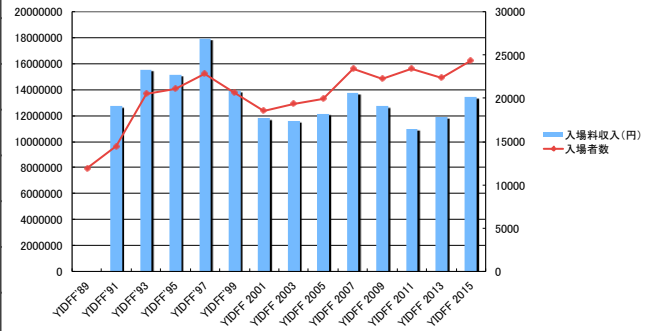
YIDFF 2011 美術館おぼけテレビ



YIDFF 2011 キューバライブ

10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 開幕
2014	
05-22	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-05	イベント「怪異の表象」
09-13	イベント「喜劇大行進」
10-03	イベント「山の恵みの映画たち」
11-15	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2014
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2015	
05-23	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-24	コンペ上映作品発表記者会見
08-08	イベント「市川昆が見つめた戦後日本」
10-08	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開幕
2016	
05-21	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-09	イベント「山の恵みの映画たち 2016」
11-05	イベント「わたしのドキュやま大芋煮会」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2017	
02-25	イベント「映画『SHARING』の挑戦」

入場料収入推移



YIDFF 2013 美術館ディスカッション



YIDFF 2015 さよならパーティー

受賞一覧

	各賞
1989.10	山形経済同友会第一回明るい山形MVP賞受賞
1998.2	日本映画ペンクラブ賞
2001.11	第25回 山路ふみ子文化賞
2005.1	第54回 河北文化賞
2006.10	国際交流基金国際交流奨励賞・文化芸術交流賞
2007.8	サントリー地域文化賞
2008.3	第25回 NHK東北ふるさと賞
2011.7	第29回 川喜多賞
2012.3	第9回 シネマ夢倶楽部賞
2013.2	第3回 地域再生大賞・準大賞